

新規指定文化財の概要

せんげんてい 浅間堤のケヤキ

【種 別】 記念物（天然記念物）

【所在地】 伊勢市中島 2 丁目

【管理者】 松井孫右衛門顕彰会

【概 要】

1. 浅間堤と孫右衛門伝承

江戸時代、宮川では度重なる洪水被害を防ぐため、本堤修復・水刳堤築造などの大規模工事が度々行われている。その中の一つである浅間堤は、最も上流に位置し、延享 5 年（1748）に山田惣中が資金を捻出し築いた水刳堤である。長さは 85 間（約 155m）で、大水氾濫への無事を祈る垢離行者が祠を設け、富士浅間を拝んだことから「浅間堤」と呼ばれている。また、堤防跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録している。現在においても、河川工学的に水刳堤としての治水機能が認められている。

堤には松井孫右衛門人柱堤の伝承があり、堤内に鎮座する神明神社には松井孫右衛門の石像が祭られており、現在も、命日とされる 8 月 25 日には松井孫右衛門顕彰会によって祭典が営まれている。

2. 浅間堤のケヤキ

浅間堤には、現在約 10 種類の樹木が生育しているが、中でも、上流側に成育しているケヤキは堤の樹木の中で一番の規模を誇っている。

ケヤキは、ニレ科の落葉高木で、本州から九州の山地に生えている。幹は直立し、枝は扇状に広がって伸びている。樹皮は灰褐色で、葉は互生し、長卵形で先はとがり、長さは 3～7 cm で縁に鋸歯がある。春になると、新緑と同時に淡黄緑色の花が咲く。

浅間堤のケヤキは、胸高周囲 5.8m、樹高 28m で、成育状況は良好である。また、三重県天然記念物に指定されている「真福院のケヤキ」（津市美杉町三多気、胸高周囲 6.7m・樹高 25m）や「国津神社の櫨」（津市美杉町太郎生、胸高周囲約 7 m・樹高約 30m）などに匹敵する規模となっている。

神宮に成育しているケヤキを含め、伊勢市内の状況を見ても、最大の規模を誇っている。

（参考文献）

『宇治山田市史』（宇治山田市役所編 昭和 4 年）

『宮川用水史』（宮川用土地改良区編 昭和 61 年）

『図説 花と樹の大事典』（植物文化研究会編 平成 8 年）

『三重の巨樹・古木』（三重県緑化推進協会 平成 19 年）



浅間堤のケヤキ